

平成22年度一般会計当初予算説明資料

6款 農林水産業費

1項 農業費

11目 農業大学校費

農業大学校(電話:0858-45-2411)

(単位:千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他 (使用料)	一般財源	
農大教育魅力アップ情報発信事業	1,060	1,533	△473	293		10	757	
トータルコスト	6,708千円 (前年度 4,847千円)[正職員:0.7人]							
主な業務内容	農大教育の充実と新規就農志向者の掘り起こし							
工程表の政策目標(指標)	卒業生(学生)及び研修生の就農率60%							

事業内容の説明

1 事業の目的・概要

「生産から販売までの一貫した教育」を掲げて発足した新教育体系の充実を図り「真に魅力ある農大教育」に高め、農大の魅力を県内外に広く情報発信し、学生・研修生の確保を図るとともに、県内新規就農の促進、農村定住者の増加を図る。

2 主な事業内容

(単位:千円)

区分	項目	事業内容	予算額
農大教育の充実	「農大市、量販店販売実習」の充実と定着	学生や研修生が生産した物を消費者と相対で販売する農大市と、量販店での販売実習を有機的に組み合わせて、生産から流通販売までの一貫した実践教育を充実強化(年8回程度)	658
	「オープンカレッジ(公開講座)」の開催	流通マーケティング分野や農業生産法人経営者などの著名な講師による特別講義を実施することにより、産業として自立できるビジネス感覚を養うとともに、一般県民にも受講していただくことにより、新生農業大学校の新たな農業教育への取組を理解し、農業の魅力をアピール(年4回)	
	「実践農業者の経営と展望」講座の開催	学生、研修生を対象に、優秀な農家や年代の近い若い農業者の経営実態や考えを聞く機会を設け、農業現場の理解を深める教育を強化(年5回)	
新規就農志向者の掘り起こし	(新)社会人対象オープンキャンパスの実施	特に社会人入学希望者を対象として、農作業や授業を体験することで、本校の教育制度の理解を図り入学への動機づけとする。(年1回)	402
	退職帰農者、IJUターン就農希望者へのPR活動	県内・県外(東京、大阪)で開催される就農及び定住促進のための相談会に参加し、農大教育のPRを行い、学生・研修生の募集につなげる。	
計			1,060

3 これまでの取組状況、改善点

○生産から販売までの一貫した教育を強化

農大市(7回)とイトーヨーカ堂(2回)の販売実習の実施により、販売に対する意識付けと経営感覚習得のための学習を行った。

○就農を目指す社会人の積極的な受け入れ

オープンカレッジ、実践農業者の経営と展望講座に聴講生として受け入れた(聴講生約500名)。また、ふるさと就農体験塾を2回開催し42名の参加があった。

\*22年度は、社会人入学希望者を対象としたオープンキャンパスを実施し、入学への動機付けを行う。